

ALES
DYNAMIC
SEALER

MILD

アレスダイナミックシーラーマイルド(透明)

洋風コンクリート瓦 塗り替え工法

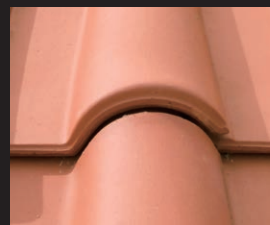
今までスラリー層のある洋風コンクリート瓦（モニエル瓦・スカンジア瓦・クボタ洋瓦等）の塗り替えは、スラリー層の脆弱部から剥離することが懸念されていました。

関西ペイントの高い技術力を持つ製品と適切な下地処理により、脆弱なスラリー層を強固に補強することで従来の懸念を解消しました。

洋風コンクリート瓦の見分け方



【乾式洋瓦】
瓦の小口が凸凹している



【プレスセメント瓦】
瓦の小口に凸凹がない

1 下地処理



高圧洗浄しながらデッキブラシ等を用いて脆弱な着色スラリー層、汚れ、異物を除去します。
(洗浄機水圧: 15MPa相当基材から30cm以内で噴射推奨)

再洗浄が必要



容易に取れる

再洗浄が必要



少し付く

洗浄完了



ほぼ除去

洗浄後に乾いた状態で軍手などを用いて着色スラリー層の除去状況を確認してください。汚れが付く場合は再洗浄が必要です。

2 下塗り塗装



下塗りは、基材が乾燥後に流れるくらいたっぷりと塗布してください。



付着テスト

下塗り乾燥後、素地との付着性をガムテープで確認してください。剥がれが認められる場合は、再度、下塗り塗装を実施してください。

3 上塗り塗装



塗装後24時間以内に、降雨・結露が予想される場合は塗装を避けてください。

下塗り塗装までのPOINT動画



洋風コンクリート瓦塗り替え工法

■ 適用上塗り

- ・アレスダイナミックルーフ
 - ・アレスダイナミックルーフ遮熱
 - ・アレスダイナミックルーフMUKI
 - ・アレスダイナミックルーフアクア
 - ・ラグゼMUKIルーフマイルド
 - ・ラグゼMUKIルーフマイルド遮熱
- その他についてはお問い合わせください。

■ 荷姿

アレスダイナミックシーラーマイルド 透明
15kgセット(主材13.5kg 硬化剤1.5kg)

■ 標準塗装仕様

■ アレスダイナミックルーフ仕上げ

工程	塗料名・処置	希釈率	塗装回数	標準塗付量 (kg/m ² /回)	塗装方法	標準塗装間隔 (23℃)
下地調整	高圧洗浄しながらデッキブラシ等を用いて脆弱な着色スラリー層、汚れ、異物を除去します。(洗浄機水圧:15MPa相当基材から30cm以内で噴射推奨)					
下塗り	アレスダイナミックシーラーマイルド 透明	0(無希釈)	1回*	0.15~0.30	ハケ・ローラー	4時間以上7日以内
上塗り	アレスダイナミックルーフ	塗料用シンナーA 5~15	2回	0.15~0.25	ハケ・ローラー	4時間以上7日以内

*下塗り乾燥後、素地との付着性をガムテープで確認してください。剥がれが認められる場合は再度下塗り塗装を実施してください。

■ アレスダイナミックルーフ遮熱仕上げ

工程	塗料名・処置	希釈率	塗装回数	標準塗付量 (kg/m ² /回)	塗装方法	標準塗装間隔 (23℃)
下地調整	高圧洗浄しながらデッキブラシ等を用いて脆弱な着色スラリー層、汚れ、異物を除去します。(洗浄機水圧:15MPa相当基材から30cm以内で噴射推奨)					
下塗り(1回目)	アレスダイナミックシーラーマイルド 透明	0(無希釈)	1回*	0.15~0.30	ハケ・ローラー	4時間以上7日以内
下塗り(2回目)	アレスダイナミックプライマー遮熱	塗料用シンナーA 5~10	1回	0.13~0.23	ハケ・ローラー	4時間以上7日以内
上塗り	アレスダイナミックルーフ遮熱	塗料用シンナーA 5~15	2回	0.15~0.25	ハケ・ローラー	4時間以上7日以内

*下塗り乾燥後、素地との付着性をガムテープで確認してください。剥がれが認められる場合は再度下塗り塗装を実施してください。

■ 施工上の注意事項

- 本注意事項及びご使用になる上塗りのカタログに記載の注意事項を必ずご確認の上、塗装を行ってください。
- 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨・結露などで負荷が掛った場合や、低温・高湿度・通風の悪い環境では、はがれ、剥離、割れ、白化、シミなどが発生するおそれがありますので、塗装をさけてください。
- 長期間結露が継続発生するような箇所への塗装はさけてください。塗装は、剥離、はがれなどの異状が発生するおそれがあります。
- 可塑剤が多含まれる部材(塩ビ鋼板、ゴムパッキン、ラミネート、合成皮革、プラスチック、シーリング材)への塗装はさけてください。粘着や軟化が生じるおそれがあります。また、これら部材に直接塗料が接触しないよう注意してください。
- 塗料用シンナーで溶解する旧塗膜や下地の場合は塗装しないでください。(ちぢみ、にじみ、中うみ、割れなど発生する場合があります)
- 気温5℃以下(低温)、湿度85%以上(高湿)での施工はさけてください。
- 屋外において、雨・曇り・霧・雪などがある場合は塗装をさけてください。
- 塗装間隔は環境(温度、湿度、換気回数など)や膜厚によって変わります。
- 所要量は、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などにより増減することがあります。
- 塗装時降雨や結露の影響を受けた場合は、白化やつやがけなどの異状が生じやすくなります。山間部や河川沿いなどの夜露の早くおきる多湿地域では、より条件が厳しくなりますのでご注意ください。
- 表面は乾燥過程で水(降雨、結露など)の影響を受けると白化することがあります。白化した場合は軽く膜面を研ぎやすめたり、乾燥を促すための工程に移ってください。
- 雨・曇り・霧・雪などがある場合は、断熱機能が十分でない場合、断熱機能が十分でない建物・換気効率が十分でない建物・漏水漏れ時の止水処理が十分でない場合、居住者の生活環境などの違いで、塗膜の持つ透湿性以上の水蒸気量が発生するケースでは、塗膜ははがれが発生することがあります。
- 塗料仕様に記載の塗装間隔は、屋外で気温23℃の条件を想定しています。低温時や屋内などで十分な換気ができない場合は、塗装間隔が長くなる必要がありますのでご注意ください。
- 塗料仕様書に記載の数値は標準的なものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件により多少の幅が生じる場合があります。
- 塗膜の厚さを10mm程度に保てるために、所定の塗り回数と塗付量確保による施工を行ってください。
- 塗膜の厚さを10mm程度に保てるために、所定の塗り回数と塗付量確保による施工を行ってください。活版下地条件(付着強度が0.7N/mm以上)
- 日陰部分に光が当たって白化している場合は付着不良や塗り重ねちぢみが発生する場合があります。また、旧塗膜表面の目荒らしを行い、試し塗りによって確認の上、塗装を実施してください。
- 吸い込みの大きい下地や素材の場合は、塗付量が乾燥が速くなりますので塗装間隔を長めにとってください。また、上塗までの塗装間隔が規定よりも短い場合、ちぢみ、割れ、乾燥不良を起こすおそれがありますので注意してください。
- 被塗物の形状、断熱性や色、塗膜厚の差などにより、実際のつやや若干異なって見える場合があります。また、塗り残し箇所やつやむらが生じやすくなる傾向があります。試し塗りを上、本施工に入ってください。
- 塗装間隔は厳守してください。塗装間隔を過ぎた場合は目荒らしを行った後に塗装してください。また、塗装間隔が短い場合は、ちぢみ、割れ、しわなどが発生することがありますので、ご注意ください。
- 本品は塗料の調製は、中途や上塗り塗料が残りやすいようご注意ください。塗り残しや残りがある場合、薬液の透過によりシーラー塗膜が架橋化を起す層間ではく離が生じることがあります。
- 本品の白タイプを推奨します。
- ローラーで塗る場合は、ローラーに塗るよう仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。
- はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、仕上がりに色相に多少の差が生じます。
- 被塗面の洗浄に薬剤を用いた場合、水洗いを急に行ってください。被塗面に薬剤が残存したまま塗装

- すると、塗替え後の塗膜にふくれ、はがれ、白化などの異常をきたす場合があります。水洗後にpH試験紙を用いて被塗面に中性になっていることを必ず確認してください。
- 新築などの養葉系屋根材では、高圧水洗後や、降雨・融雪などで屋根材の内部にしみ込んだ水分が乾燥期では抜けきれないため、晴天時に1〜2日程度乾燥させた後に塗装してください。乾燥が不十分な状態で塗装すると、塗膜の割れ、はがれ、はがれなどの不具合が発生することがあります。
- 改修前、漏水、ひび割れが認められる場合は、予め要因となっている箇所への防水処理、ひび割れ補修を行ってください。
- 被塗物にカビや藻が繁殖している場合は、下地処理としてカビ・藻の除去および殺菌処理後、十分水洗し、乾燥してから塗装してください。
- 塗料の部位にワックスやグリーナーなどが残存している場合には、はじきや付着不良の原因となり、その後の施工に影響を及ぼすおそれがあります。施工部位の構造や形状、環境条件などにより、この影響は異なります。
- 洗浄後、新生瓦の破損、後物の釘浮き、シーリング切れなど確認を行い、補修が必要な場合には適切な処置を行ってください。
- 屋外での施工中、施工後間もなく、気象の急変により降雨が生じた場合はシート養生などを行い、塗装面に直接雨がつかないように対策してください。
- 塗装タストなどの飛散防止、塗装面以外への付着防止のため必ず養生を行ってください。
- 防カビ・防藻性は繁殖の抑制の効果を示すものではありません。施工部位の構造や形状、環境条件などにより、この効果は異なります。
- 低温時の使用では、硬化剤混合後、時間が経てもゲル化しない場合がありますが、ポットライフを過ぎた塗料は使用しないでください。塗膜性能不良の原因となります。
- 主剤と硬化剤を規定の混合比率で配合した後、十分かき混ぜた後に塗装に使用してください。
- 主剤と硬化剤の混合比率が合っていない場合には、仕上がりに、耐熱軟化性、付着性、耐久性などの諸性能に影響しますので正確に計量・配合してください。
- 主剤と硬化剤を混合した塗料は、可使用時間を過ぎたものを使用すると、付着不良や塗膜の剥離を起すおそれがありますので廃棄してください。
- 塗料の再使用は試験管をこぼさずおそれがありますので廃棄してください。
- 規定曲率を超えて希釈すると、はじき、光沢低下、色味変化、はがれ、附着力不足など仕上がり異常をきたすおそれがありますので、所定の希釈率を遵守してください。また当該現場で一度定めた希釈率はなるべく同一にしてください。
- 塗料の希釈に「塗料用シンナーA」以外のシンナーを使用した場合、再溶解やちぢみなどの不具合が生じる場合があります。
- 塗料用シンナーの洗浄にはラッカーシンナーをご使用ください。
- 材料の廃棄は、内容物が均一になるよう十分に攪拌し、開栓後は速やかに一度に使い切り、使用した塗料を元の塗料容器に戻さないでください。
- 硬化剤は吸い取りやすいので、保管場所、保管状態に十分注意してください。また、湿気、水分と反応し硬化剤変質しますので、開栓後は速やかに使い切ってください。
- 溶剤系塗料ですので、室内塗装では溶剤蒸気が滞留しないよう十分な換気をしてください。また、屋外塗装においても溶剤蒸気が換気口から流入しないよう養生を行ってください。
- 高圧洗浄しながらデッキブラシ等を用いて脆弱な着色スラリー層、汚れ、異物を除去します。
- 高圧洗浄後は、排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないでください。
- アレスダイナミックシーラーマイルドは透明タイプのみ使用可能です。
- 下塗り乾燥後、素地との付着性をガムテープで確認してください。剥がれが認められる場合は再度下塗り塗装を実施してください。

■ ご使用上の注意事項

下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

取り扱い作業中、乾燥中ともに換気の良い場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護メガネ・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。

吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。

皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・入り巻きタオル・長袖の作業着・前掛を着用すること。

火気をつけること。静電気放電に対する予防処置を講ずること。

火災を発生しない工具・防護用の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。

裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。

本来の目的以外に使用しないこと。

指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。

手の取っ手を持って取り扱って、目や顔に飛びかけたりしないこと。

取り扱い後は、花洒、水洗い、加熱、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。

使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。

本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

- 目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
- 皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い流す。痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。
- 吸入した場合：空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
- 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
- 漏れ時や飛散時：場合は、後、布類(ウエス等)で吸い取り、拭き取ること。
- 火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。
- 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。
- 本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)
- 本品は揮発性の化学物質を含んでいますが、塗装直後の引渡しの場合は、施工員に対して安全に十分注意を要するよう指示してください。
- 例えは、不特定多数の方が利用される施設などは、立看板などでペンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp



お近くの営業所は
こちらから!

各種カタログご覧になれます。

*本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご諒承ください。

(25年03月01日PKO) カタログNo.985